

令和5年度
学校自己評価報告書

令和6年5月29日
学校法人 中央医療学園
中央医療技術専門学校

令和5年度 学校自己評価について

1. 教育理念・教育目標
2. 学校運営
3. 教育活動
4. 学修成果
5. 学生支援
6. 教育環境
7. 学生募集と受け入れ
8. 財務
9. 法令等の遵守
10. 社会貢献

令和5年度 学校自己評価について

学校法人 中央医療学園 中央医療技術専門学校は、東京都葛飾区で診療放射線技師を養成する教育機関として、昭和 34 年に開校しました。実践的な職業教育により、最前線で活躍できる診療放射線技師の育成を行っております。

本校では、平成 30 年度より、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考として評価項目を作成し、現状・課題の把握および改善策について検討・実施いたしました。

評価にあたっては、平成 14 年度から実施している学生授業評価アンケートの今年度の結果なども踏まえて行っています。また、この学校自己評価の結果を生かして、教育の質を向上してまいります。

1. 対象期間

令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日

2. 実施方法

学内に「学校自己評価委員会」を設置し、委員会で評価を行った。

- ・委員会の構成は、委員長を学校長とし、委員は法人事務局長、教務部長、法人事務局次長（財務）、教務部参与、教務課長、学生課長、学校総務課長（事務長）とした。
- ・評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に評価段階を 4 段階（4：大変良い 3：良い 2：あまり良くない 1：良くない）とし、各項目について評価をした。
- ・評価は、年一回年度末に行うこととした。
- ・評価結果の公開は、本報告書をホームページに掲載することにより行った。

1. 教育理念・教育目標

	評価項目	評価
1	教育理念・目的・育成人材像は定められているか	4
2	特色ある教育が行われているか	4
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を持っているか	4
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4

〈現状〉

- ・本校の目的は、医療の発展と国民の健康に寄与する診療放射線技師の養成にある。そのため、教育理念として「現場で活躍できる職業人の育成」を掲げ、入学直後から病院見学を取り入れるなど、より実践的な教育を行っている。
- ・教職員並びに全生徒が同じ校章を身に付けることにより、結束力や、連帯感が高まることを目的とし校章を作成し、全員に配布した。今後は毎年、新入生に配布する。
- ・英語の授業は、英会話教室NOVAより外国人講師を招いて、医療現場で使用する会話に重点を置いた授業を実施している。
- ・教員が数グループを担当してグループ研究を行い、研究発表会を開催している。
- ・本校は、診療放射線技師を養成する単科の学校であり、開校以来 65 年の歴史をもち、日本で最も多くの診療放射線技師を育てている学校の一つである。また、開学以来、夜間の過程を設置し働きながら学べる環境を提供し続けている。
- ・医療界のニーズとして、診療放射線技師教育には 4 年制教育が求められている。そのニーズにこたえるため、将来的に本校も 4 年制（大学）を目指している。
- ・ホームページに「建学の精神として」理念の概要を明記し、本校を志望する受験生および保護者に知らしめている。
- ・ホームページ更新に当たり、専任教員全員の担当教科を明記して学生へのメッセージを掲載し、教員紹介の頁を充実させた。

〈今後の改善方策〉

- ・令和 4 年度より、放射線技師の英会話力の向上を目的として、英会話教室NOVAから外国人講師を招聘し、学生に実践的な英会話授業を提供しているが、今後も継続する。
- ・令和 4 年度より、学生に学校への愛着を深めさせるため、週に一度、授業開始前に校歌を流しているが、今後も継続する。
- ・校訓である「深い人類愛」、「強い探究心」を前面に掲げ、学力・技術力・研究心を身につけることはもちろん、将来医療技術者として必要となる人に対する思いやりや心遣いの重要性を、より一層力を入れて教育していく。また、診療放射線技師にとって必要な「深い洞察力」を身につけられるような教育を行う。上記については、学校説明会などを通して積極的に広報していく。

2. 学校運営

	評価項目	評価
1	目的に沿った事業計画が策定されているか	4
2	運営組織や意思決定機能は規則等において明文化され、有効に機能しているか	4
3	人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
4	情報のシステム化による業務の効率化が図られているか	3

〈現状〉

- ・理事長が出席する役職者会議を、毎月開催しており、学校運営に係わる課題、問題点などの対策を講じる場である。会議を通じて理事長は、学校の現状認識ができ、同時に役職者が認識を共有し、経営に関する意思決定を行っている。
- ・役職者会議での決定事項は、学校の職員・教員合同の全体会議で報告し、学校運営の意思統一を図ると共に、役職者会議、全体会議のそれぞれの議事録を作成し、齟齬が生じないよう情報を共有している。
- ・本校の事業計画の策定については、次年度の予算や授業の運営がある程度目処がたった時点で、予算と授業運営に沿った単年度の事業計画を策定している。
- ・規程集（学校法人寄附行為・就業規則・組織規程・給与規程・研修規程等）は教務室およびファイルサーバーの共有のファイルに置いてあり何時でも誰でも閲覧できるようにしている。
- ・令和6年4月1日施行に向けて学則の改正を行った。その内容については、休業日や授業時間、教職員組織等を現状に合わせた。また、在学期間について同学年を2年間で限度であったが、最高学年のみ在学期間（昼間部は6年間、夜間部は8年間）を変更した。また、学生の費用負担の軽減策として、休学中の学納金について、施設維持費（昼間部240,000円、夜間部215,000円）でなく、昼夜間部共通の在籍料（年間60,000円）に変更した。
- ・学則の細則についても、様式の変更および学校保健安全法施行規則の一部の改正に伴う変更と、学生擁護の観点から、国家試験の申込み要件を「医用放射線第1回から第3回までの結果が120点以上を超えなかった場合」から、「11月末までの結果で合格基準点を決め、それを超えなかった場合」に変更した。
- ・研修規程、教職員派遣規程、指定校推薦規程、奨学基金規程等を見直し、より良い学校運営ができるように整備した。
- ・令和5年度も学生連絡用 Drop Box 掲示板を使用して学生への連絡を行った。

〈今後の改善方策〉

- ・ファイルサーバーにある共有フォルダ内のファイルが整理されてなく、過去に使用したもので今後保存しておくべきもの、必要のないものを整理する。サーバーの容量の確保と事務の効率化を目指し、令和6年度中に整理が完了するよう検討する。

- サーバー（ファイルサーバー、学籍管理サーバー）のバックアップは常に行っているが、災害時に対応する二次的なバックアップの方法を前年度に引き続き検討する。
- 現在使用しているサーバーと教務室等で使用している Wi-fi のアクセスポイントは、今年度で5年を経過するので、次年度以降での更新を検討する。

3. 教育活動

	評価項目	評価
1	カリキュラムは体系的かつ適正に編成されている	4
2	人材ニーズ等に合わせ、カリキュラムの見直しが行われている	3
3	成績評価・単位認定の基準は明確に設けられている	4
4	授業計画が明文化され、それにもとづく教育を実施している	4
5	授業評価の実施、評価体制が整っている	4
6	教員の資質、指導能力向上に対する方策を採っている	3
7	資格取得の指導体制はある	3

〈現状〉

- ・診療放射線技師養成所指定規則の改正に伴い令和4年度より新カリキュラムにより授業を行っている。新カリキュラムの実習においてOSCE（実習前の実技試験）及び、診療放射線技師タスクシフトの講義・実習を取り入れ、現場での人材ニーズに合わせた講義・実習を取入れたカリキュラムを計画した。
- ・成績の評価は学則に則って行われており、講義については期末試験、実習については実習項目ごとに提出されるレポートをもって評価されている。また、最終的な単位の認定、進級、卒業の判定は学年末に行われる専任教員による教務会議によって行われた。進級要件など、学則の運用に必要な細目は細則に定め、実施した。
- ・授業内容・計画については、年度初めにシラバスを用いて、教科の目標、評価の基準などを学生に示した。シラバスは、ホームページに掲載した。
- ・例年、授業評価については、学期ごとに学生に授業アンケート（マークシート・自由筆記・オンライン）を行い、教員にその内容をフィードバックした。
- ・今年度も年度末に教員のFDの一環として、指導に対する講演を実施した。
- ・今年度は前期後期で外部の評価者を招き、非常勤講師・当校専任教員に対しFDの一環として、教員相互の授業参観を行った。
- ・最上級学年においては、診療放射線技師国家試験に向け、月に1回程度の模擬試験と夏季補講を実施、学生の学力の把握に努めた。また、試験結果において指導の必要が認められる学生については、個別に課題を与え指導している。専任教員から指導係を選任し、1~2名の留年生に対し学業指導を行った。
- ・毎週模擬試験を行い、その結果をその少人数指導の資料とする。
- ・本年度より学業に興味を向かせるために、グループ研究および発表会を行った。
- ・入学前教育を行い基礎学力の向上を行った。

〈今後の改善方策〉

- ・留年生対策について、臨床実習中は別途時間割を組み、補講を継続する。

- ・授業終了後に学内での学習を行いやすくしてゆき、質問しやすい環境を作っていく。
- ・国家試験形式の模擬試験を月に1回程度行う。模擬試験の結果で成績不良者には課題を与え指導を行う。また夏休み中は対象者に補講を行う。
- ・出席率向上を目指し、毎日、学生の出席状況を把握する。無断欠席をした学生には電話連絡をし、状況を確認のうえ出席するように促す。
- ・本校では、診療放射線技師国家資格取得が最も大きい目標の一つであるので、毎年、最上級生の指導については、担任を中心に全教員でより良い方法を常に議論・検討していく。

4. 学修成果

	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	2
4	卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	3

〈現状〉

- ・学生課の中に、就職担当を置き求人先や学生との対応を行っている。最上級生に対して例年4月中に就職活動を行うにあたって、ガイダンスを実施している。また、履歴書の書き方や面接の受け方の指導を行うとともに、希望する学生については、別途履歴書の添削や面接指導を行った。
- ・学生の就職希望施設に見学の取次ぎや説明会の要望をお願いした。
- ・診療放射線技師国家試験の問題集・解説集を学校独自で作成し、最上級学生のみではなく昼間部2年生、夜間部3年生にも配布し、早期に国家試験に向けての意識を持つように指導した。
- ・1年時から、専門科目を取り入れることによって診療放射線技師を目指すモチベーションを維持してもらう。また、例年、1年時春に、病院を見学し医療現場での業務内容を見てもらう事により、将来の自分をイメージさせ勉強に活かせてもらっていたが、本年度は1月に実施した。
- ・在学時から研究に興味をもっている学生は、例年、グループ研究として教員の指導のもと実験・研究を行い、纏めたものを日本放射線技術学会などで発表している。今年度は、有明セントラルタワーホールで開催された日本放射線技術学会東京・関東支部合同研究発表大会 2023 にて優秀演題賞を受賞した。また、第43回日本核医学技術学会総会学術大会、2023年度関東甲信越診療放射線技師学術大会で研究発表を行った。
- ・卒業後、大学や大学院を目指す学生に向けて、編入学試験情報を掲示している。
- ・卒業時に、任意ではあるが卒業後の住所・就職先などを報告してもらい卒業教育などの連絡に充てている。
- ・国家試験不合格者には、学校で実施している国家試験形式の実力試験・医用放射線試験に参加を推奨している。また、希望者に対して国家試験解説動画の閲覧とCBT (Computer Based Testing) を実施できるようにした。
- ・中途退学や不登校の要因の1つに学生のメンタル面の弱さが考えられるため、専門のカウンセラーを置いてメンタルケアを行った。今年度はオンラインと対面でカウンセリングを実施した。

〈今後の改善方策〉

- ・基礎力リサーチを行い学生個々の学力や修学に対するモチベーションなどを把握していく。
- ・既卒者の希望者に対して国家試験解説動画の閲覧とCBT (Computer Based Testing) を継続していく。
- ・令和5年度の退学者が例年になく多かったので、退学理由の原因究明と対策が必要となる。

5. 学生支援

	評価項目	評価
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
6	学生の生活環境への支援は行われているか	3
7	保護者と適切に連携しているか	3
8	卒業生への支援体制はあるか	3

〈現状〉

- ・近年の求人数については減少傾向である。就職支援については4－1「就職率の向上が図られているか」に記述。
- ・求人情報についてはPDF化することにより校内のみに限らず、校外でも閲覧できるように引き続き配慮した。
- ・学生の進路の一つに大学への編入があり、その進路支援のため、編入情報の提供、入学試験指導（過去問題の提供や勉強方法のサポート等）を行っている。
- ・学生相談室を設け学生の精神的な悩みや友人との問題などに対する専門家によるカウンセリングを行っている。利用方法等についてはクラウド上の掲示や校内一斉メールにて学生に周知をした。
- ・本年度においても引き続きカウンセラーの先生には前期授業の1教科を担当してもらい、臨床心理士の立場から講義を実施していただいている。
- ・学生本人又保護者の経済的急変に備え、学校独自の奨学金制度を設けている。無利子の奨学金で、卒業後に定額を返還するシステムである。
- ・学生の健康管理として年一度の健康診断を行い、結果を学生に通知している。
- ・近隣病院マップを教職員と学生に共有している。
- ・課外活動は運動部としてバレー部、テニス部、Build up & Shape up 同好会など、文化部としてピエゾ（超音波）部、軽音楽部などがあり、若干の部費と活動場所を提供している。本年度においては、新型コロナウイルス感染の状況を確認するとともに、徐々に活動を再開した。
- ・中央医療祭（学園祭）を学生主体で実施している。学生同士のコミュニケーションを図るとともに協力して一つのイベントを行う協調性や経済的、社会的適応能力を身につける事を目標として、学校として運営の補助や費用の負担等をしている。今年度においては、11月3日（文化の日）に感染対策をしながら実施した。また、近隣の自治会の協力もあり近隣住民を含め多くの方々に参加いただくことができた。
- ・受動喫煙を考慮して校内は全て禁煙としている。

- ・ラウンジに電子レンジ、給湯器を配置して、学生の飲食を補助している。ラウンジの使用については、東京都の新型コロナウイルスの感染状況を確認しながら可能な範囲で使用した。
- ・保護者には半期ごとに成績送付、最上級生には模擬試験の成績送付や保護者会などを行っている。また、学生の勤惰を早く把握してもらうため、学生が一定数（原則同一授業3回）欠席したときは、学生の同意をとり保護者に連絡をしている。
- ・最上級生の保護者に対して、保護者会を設け学生の現況を説明することで国家試験に向けて保護者にも協力をお願いしている。今年度においては11月4日（土）に保護者会を対面形式で実施した。
- ・既卒者（国家試験不合格者）を対象に専任教員が作成した国家試験解説動画の閲覧と CBT（Computer Based Testing）を実施出来る環境を整え、ホームページや「かつしかだより」で告知し、8月末より希望者に対して実施した。本年度においては、解説動画11名、CBTが7名の申込があり対応した。
- ・感染対策を取ることで既卒者に対しての図書室の利用を実施した。
- ・既卒者の就職について、学生課の就職担当が在校生と同様に就職支援の対応をしている。
- ・学生の個人ロッカーを1号館教室内および4号館廊下に設置している。

〈今後の改善方策〉

- ・新型コロナウイルス蔓延により活動が休止していた同好会および部活動について、顧問を決め活動を再開していく。

6. 教育環境

	評価項目	評価
1	施設・設備は、教育上、充分に対応できるよう整備されているか	3
2	実習などについて、十分な教育体制が整っているか	4
3	防災に対する体制は整備されているか	3

〈現状〉

- ・全面对面授業を実施した。
- ・学生からの質問に答えられるように学生用のメール受付を行った。
- ・校内学生実習用放射線器具・設備に関しては診療放射線技師養成所指定規則に従って準備されている。学生の学習用図書は図書室に一万冊以上の蔵書があり、パソコンによる検索が可能である。
- ・超音波骨密度測定装置およびフラットパネルディテクタ（FPD）を新規導入し、学内での実験・実習に使用している。また、新カリキュラムの実技実習に対応できるように上部消化管用ファントムおよび静脈穿刺用キットを購入し対応した。
- ・文学書を中心に 386 冊の寄贈があった。それにより今年度から、図書室に文学書を中心とした蔵書の充実がはかられた。
- ・図書室は、今年度は新型コロナウイルス感染対策を緩和して、利用時間を通常の開館時間に戻した。
- ・臨床実習においても診療放射線技師養成所指定規則に従って行っており、事前に病院実習先の方による説明会を行っている。
- ・防災訓練は、新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行されたが、行事予定に組み込めず実施出来なかった。
- ・1 号館の全教室に、簡易ではあるがスピーカーとワイヤレスマイクシステムを設置し、対面授業に支障がないように対応した。

〈今後の方策〉

- ・現在、放射線医療における医療機器は日進月歩の進化を遂げている。今後、最新の放射線医療に対応できるようにデジタル撮影装置などによる校内実習の実現や、コンピュータ社会への対応が可能な人材育成を行っていく。
- ・教員と学生が情報共有するための Wi-fi の導入を検討する。

7. 学生募集と受け入れ

	評価項目	評価
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
3	入学選考は、適正かつ公平な基準により行われているか	4
4	学納金は、妥当なものとなっているか	4

〈現状〉

- ・例年、パンフレットおよび学生募集要項を作成し、全国の受験生に対し配布を行っている。また、高校訪問のほかに Web でも学校説明会を行い、当校の特色や卒業後の進路などの説明を行っている。本年度においては、web の学校説明会を 2 回行った。
- ・年に 15 回の学校説明会を行い、診療放射線技師国家試験の現状や就職に関する情報を説明している。校内見学においては実際に当校の施設を見学してもらい当校の特色を理解してもらっている。
- ・ホームページについては一部修正・改修するとともに、SNS（インスタグラム・YouTube）を活用した配信を行った。また、広報活動として外部業者を経由した資料請求も多くあることから、オープンキャンパスの風景動画（OC ストーリーズ）の配信を引き続き行った。
- ・当校の学生募集要項やホームページにおいて当校の国家試験合格率の結果報告や国家試験に対する学生受験対策の内容を掲載している。
- ・当校入学選抜考査は学内に入試委員会を設け、入試問題の作成・実施・採点を行い、入試問題に対し適切な試験問題が作成されているか検討を行っている。
- ・入試形態においては、第 4 回一般入学試験を夜間部のみの募集から昼・夜間部の募集へと変更した。
- ・入学選抜考査は筆記試験（試験時間 60 分）と受験生個人面接試験（面接官 2 名）を行い、筆記試験成績上位者および面接合格者の中より選抜を行っている。最終的な合格者は教務会議において最終決定される。
- ・学納金は同分野の学納金水準を把握、勘案し適正に設定している。必要な費用はすべて募集要項に記載しており、入学後に別途徴収することのないよう配慮している。
- ・全国高等学校野球選手権大会千葉大会の開催期間中に広報活動の一環として、千葉テレビ放送の CM 広告を行った。
- ・京成立石駅の改修工事に伴い、学校の看板広告が撤去されることとなった。これに伴い、学内で検討した結果、新たに東松戸駅の階段に看板広告を設置した。

〈今後の検討要綱〉

- ・学校説明会については実施する時期により参加者（高校生の学年等）や求められる情報も異なることから、引き続きアンケートなどをもとに内容の検討を行っていく。
- ・広報活動として高校訪問を行い、外部主催の学校説明会に積極的に参加する。

- ・SNS（インスタグラム・YouTube）の配信回数を増やすとともに、ホームページを含め閲覧情報を解析することでより効果的な方法を検討していく。
- ・入学選抜試験を見直し、AO入試を取り入れていく。

8. 財務

	評価項目	評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定していると言えるか	3
2	予算、収支計画は、有効かつ妥当なものとなっているか	3
3	財務について、会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

〈現状〉

- ・学生の定員確保が、収入の安定に繋がる。少子化及び大学進学指向の高まりが続く中、収支のより緻密な分析が必要となる。令和5年度は、事業活動収支計算書の当年度収支差額はプラスとなった。前年度と比較して、収入においては4月1日現在の在学学生総数が前年度より8名増加しており、それにより収入も増加となった。支出においては、前年度からの物価高騰による支出の増加を懸念していたが、契約の見直し等を行い物価高騰の影響は予測より少なかったが、実習施設の増加により実習費が増加しており前年度と比較して支出の合計は増加となった。応募者数が減少しており、次年度以降の収入が減少すると思われる。長期的に財務基盤が安定しているとは言い難い。
- ・予算、収支計画については、各部門から予算立案書を提出してもらい、事業計画に基づき且つ前年度実績と比較をしながら予算案を作成している。入学者数及び在籍者数に注視し予算策定の基礎としている。令和5年度は学校においては大きな乖離はなく適正に執行された。
- ・会計監査は、監事2名が事業説明を受けて、業務、財産の状況について監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会および評議員会へ報告している。令和5年度も私立学校法および寄附行為に基づき、監事2名、税理士立ち合いのもと、監査を行った。
- ・財務情報に翌期の事業計画・予算書を加えた本年度の事業報告書を教務室においてあり、誰でも閲覧できるようにしてある。平成30年度よりホームページに財務情報を公開している。

〈今後の方策〉

- ・令和6年度の入学者定員について、前年同様に定員を満たすことができなかった。応募状況も前年同様に一般入試が減少している。全体的な応募者数も減少しており、合わせて令和5年度の退学者が多く、令和6年4月1日現在での在学学生総数が前年度の比へ減少している。収入の安定に向けて応募者減少、退学理由の原因究明と対策が必要となる。
- ・財務基盤の安定は学生数の維持が必要不可欠だが、並行して経費についても綿密に精査していく。令和6年度の予算編成は、経費の可否を慎重に判断、精査して行った。
- ・予算、収支計画については、事業計画、教育目標との整合性を図りつつ、各部門からの情報を正確に把握し、教育活動が計画通りに進行できるよう予算計画を策定していきたい。
- ・財務情報については、昨年同様にホームページ上に公開する予定である。

9. 法令等の遵守

	評価項目	評価
1	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4	自己評価結果を公開しているか	4

〈現状〉

- ・ 診療放射線技師養成所設置基準・指定規則を遵守して学校運営を行っている。
- ・ 学生の成績等の学内掲示や保護者への送付については、事前に同意を得て行っている。また卒業後の住所、勤務先等の情報については、その取扱い毎に同意を得て取得している。
- ・ 自己評価委員会を設け評価している。評価後、委員会を開き項目ごとに検討している。
- ・ 個人情報の取り扱いについて個人情報保護方針（プライバシーポリシー）を明確にしてホームページで公開している。
- ・ 個人情報保護方針にしたがいホームページの資料請求（学校案内書）およびオープンキャンパス等の申込みフォームからの収集した個人情報を適切に保護している。
- ・ 卒業生が、ホームページから証明書発行手続の際に顔写真付きの公的身分証明書のコピー（運転免許証、パスポート、マイナンバーカード等）を郵送することで本人確認を行う方法に変更したが、改姓した場合の本人確認方法が明確になっていない。
- ・ 平成 30 年度より自己評価結果をホームページで公開している。

〈今後の改善方策〉

- ・ 教職員・学生に対する法令等の遵守についてのセキュリティーポリシーの作成を検討する。
- ・ ホームページから証明書発行手続の際に、改姓した卒業生の本人確認方法を明文化する。

10. 社会貢献

	評価項目	評価
1	学校の教育資源を有効活用した社会貢献を行っているか	3
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	—

〈現状〉

- ・地域の技師会・研究会などの為に施設を提供している。今年度においては、9月4日（日）に日本放射線治療専門放射線技師認定機構の試験会場として提供したほか、10月7日（土）に日本放射線技術学会関東支部令和5年度第2回関東DR研究会、3月12日（火）～15日（金）に国際電気標準会議（International Electrotechnical Commission: IEC）の会場に本校校舎を提供した。
- ・学生主体のボランティア団体（地域清掃）の活動を支援するとともに、費用の負担等を行い地域社会に貢献している。今年度においても、新型コロナウイルス感染拡大の影響により学生活動は未実施となった。
- ・災害時等の避難場所として、災害時における相互協力の協定を葛飾区と本田町会との間で締結を継続している。

〈今後の改善方策〉

- ・ボランティア活動については状況を見ながら活動再開へ向けて検討していく。
- ・コロナ禍で一時中止していた献血を再開する方向で検討する。